

算数科学習指導案

大古小学校 住田 裕子

日 時 令和4年6月7日（火）
 学 年 第5学年 26名
 単元名 単位量あたりの大きさ（1）

単元の目標

- ・単位量あたりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求める。C（2）ア（ア）
- ・異種の2つの量の割合としてとらえられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常に生かす。C（2）イ（ア）

単元計画（児童配布物）

6月1週～2週 ☆はじめの説明あり ▲説明課題あり △友達と確認
 算数単元「単位量あたりの大きさ（1）」

実施	時	教科書の ページ	めあて	たし かめ
／	1	P50～53☆ ▲	こみぐあいを比べる方法を考えよう。	プ⑰
／	2	P54☆△	人口のこみぐあいを調べよう。	ド16 プ9
／	3	P55～56☆▲ △	単位量あたりの大きさを求める方法 を考えよう。	プ10
／	4	P57～58△	4マス図を使って単位量あたりの大 きさを求めよう。	プ11 ド17
／	5	P59	練習問題をして理解を深めよう。	ド18
／	6	P60 ノート提出	練習問題をして理解を深めよう。	プ12

本時について（3時目／全6時間）

（1）本時の目標

- ・単位量あたりの大きさの求め方を考え、それを使って全体の大きさを求める。
- ・「単位量あたりの大きさ」という用語を理解する。

（2）本時の展開

1 針金の実物を見せ、長さとしが比例関係にあることに気づかせる。【一斉】

- ・長さが8 mのうちの1 m分になったら、重さも同じように少なくなる。
- ・長さと重さは伴って変わる比例関係にある。
- ・1 m分の重さのことを1 mあたりの重さと言ひ、単位量あたりの大ききと言ひ。

単位量あたりの大ききを求める方法を考えよう。

2 だいきさんの考えとななみさんの考えを理解し、違ひを説明する。【個別・協働】

だいきさんの考え

1 mあたりの重さを□gとして考えました。

1つ分の大きき 全部の大きき

□g	480g
1 m	8 m

いくつ分

$\square \times 8 = 480$

見方・考え方

1つ分の大きき × いくつ分 = 全部の大ききの考えを使っている。

ななみさんの考え

1 mあたりの重さを□gとして考えました。

1つ分の大きき 全部の大きき

□g	480g
1 m	8 m

いくつ分

$480 \div 8 = \square$

見方・考え方

比例の考えを使っている。

数直線を2本使って、考えているね。

ひろと

- ・だいきさんは「もとにする一つ分の大きき」のいくつ分かを考えているから、かけ算の式ができる。
- ・ななみさんは「全体の大きき」のどれだけの割合に当たるかを考えているから、8 mを8個に分けて1 m分にするため、わり算の式ができる。

3 単位量あたりの大ききを使って全体の大ききを求める問題を解き、確かめ合う。

- ③ このはり金15mの重さは何gですか。図や表を使って考えましょう。
- 1 mあたりの考えを使って考える

1つ分の大きき 全部の大きき

いくつ分

60g	□g
1 m	15 m

$60 \times 15 = 900$
答え 900g

- ④ このはり金を切って重さを量ったら、300gありました。切った長さは何mですか。

1つ分の大きき 全部の大きき

いくつ分

60g	300g
1 m	□ m

$60 \times \square = 300$
 $300 \div 60 = 5$
答え 5m

4 練習問題をやる。【個別】

- ・△4, プリント10をする。

5 本時のまとめと自己評価をする（Chromebookで振り返りシートを送信）。【個別】

- ・単位量あたりの大ききを求めるには、2つの量の比例関係を使うとよい。片方が÷いくつ（割合）になっていたら、もう片方も同じように÷いくつ（割合）になる。
- ・単位量あたりの大ききがわかっている時には全体の大ききも比例関係なので計算できる。

◇1の活動は10分以内に終わるようにする。

◇針金の実物を見せることで、一つのものに2つの数量関係が含まれることを感覚的に理解させる。

○ななみが1 mあたりを求めるために $8 \div 8 = 1$ をしたことを理解しているか。

○なぜ480を8で割るのかについて、比例関係の説明をしたか。

◇説明後のホワイトボードは黒板に貼り、他の児童が見られるようにする。

◇2本の数直線や比例の表を4マス図として簡略化してみせ、数量関係は4マス図で整理できることを一斉指導で知らせる。

◎4マス図をかいて数量の関係を正しく把握し単位量あたりの大ききや全体の大ききを求めているか。

◎プリント10の3を評価の指標とする。

◇本時の課題が終わった児童は、次時の課題に進む。